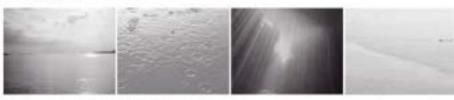
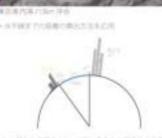
## 遷ろう風景 東京湾における散骨場

## 避ろう風景・\*\*スにおける日844・



STANDERSON, WITH THE STREET HER BERNELEY.

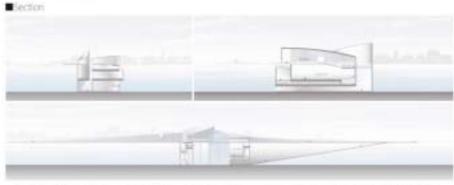




TRANSPORT TRANSPORT COMMERCIA 食物的なもれるができない。



DESCRIPTION OF THE PROPERTY CONTROLS.



別としてなかりと「おようかも」に影響を向けたち、小水変でとは乗った展開との関係を展開と都市の使り立ちに関わっていく気がする。

## 杉田 陽平 (すぎたようへい)

日本大学 理工学部 海洋建築工学科



現在、葬送の自由の思想を基に様々な 葬送行為が行われている。また、この先 時代が変われば新たな葬送行為が行われ、 それらに適した葬送場が求められていく であろう。

そこで本計画では、葬送行為の一つで ある海上散骨に着目し、海上散骨に適し た施設として、東京湾岸から13km沖合に 水辺空間を活かした葬送場を計画する。

人の目に映る世界には、沢山の向こう側 が存在している。

それは、対象者という向こう側であったり、故人が旅立った目視できない向こう側であったり、水の中を照らす光にも向こう側を感じるし、雨を降らす空にも向こう側を感じる。

世の中に散りばめられた「むこうがわ」を拾い集めるように建築に内在させることで、故人という向こう側に想いを馳せる。

## 講評

「現代における葬送」という問題を深く考えて、散骨という形 で一つの建築的な解を導き出そうとする意欲的作品である。その 方法として「向こう側」という言葉から、生と死、陸と海、日常 と非日常等が壁や水、光によって関係と断絶が空間表現されてい る。海の中の葬祭場、舟でアクセスして桟橋から向かう海上の道、 施設の中を下降する=海の底へ降りていく儀式の流れに沿った施 設計画、そして散骨の場となる海面へとまっすぐ伸びるアップス ロープは「送る」というクライマックスに相応しい厳粛な空間で ある。機能と空間、水と光の使い方も練られており、特に水位の 変化で変わる水景と水を通した光のゆらめきは美しく荘厳な風景 が想像できる。模型で表現される水面に浮かぶ白く柔らかな壁で 包まれる葬送空間は、エレガントであり葬祭場というイメージを 払拭している。なぜ東京湾の真ん中に葬祭場なのかという疑問に、 模型表現がもう少し工夫されていれば、一切を不問にする美しさ があればと惜しまれる。秀逸な造型センスを持つ作者の将来に期 待したい。(審査委員:柳田富士男)

